

授業科目名	データベース			年 次	2年										
担当教員名	藤村 龍一			開講年度・学期	2025年度・通年										
授業の方法	実習	週時限数	2	年間授業時数	76時間	科目区分 必修									
実務経験の有無	有	実務経験	システムエンジニアとしてシステム開発(概要設計～運用テスト)に10年以上携わる。応用情報技術者試験、Oracle認定Javaプログラマなどの資格を保有。												
授業の概要 (実務経験を活かした教育内容)	本科目は、データベースの基本理論・設計を理解し、SQLを用いた操作方法を学ぶことを目的としています。データベース技術は、情報化社会においてさまざまな情報の統合利用を実現するうえで、重要な基盤技術のひとつです。データベース言語のSQLを学ぶことで、データベースの操作方法を学ぶことができます。														
授業の到達目標	1. データベース言語のSQLを理解し、データベース内の情報を操作することができる。 2. プログラム(Java)からドライバー経由でデータベースを操作する方法が理解できる。														
授業計画	月	内容													
	4	・はじめてのSQL ・基本文法と4大命令(Select,Insert)													
	5	・基本文法と4大命令(Update,Delete) ・操作する行の絞り込み													
	6	・検索結果の加工 ・式と関数													
	7	・集計とグループ化													
	8	—													
	9	・前期末試験実施													
	10	・副問い合わせ													
	11	・複数テーブルの結合 ・トランザクション													
	12	・テーブルの作成 ・プログラムからデータベースへのアクセス方法①													
	1	・プログラムからデータベースへのアクセス方法② ・卒業試験実施													
	2	—													
	3	—													
成績評価の方法	前期(9月)と後期(1月)の定期試験で評価を行う。 成績評価: 優(100~90)・良(89~70)・可(69~40)・不可(39~0)														
準備学習・事後学習等	教科書を読み、SQL言語の仕様について予習をしておくこと。 自力で解けない、または理解が足りなかった課題については、しっかりと復習しておくこと。														
テキスト	スッキリわかるSQL入門[インプレス]														
参考書・参考資料等	なし														
その他 (学生に対する要望、メッセージ)	SQLはデータベース言語としてISO(国際標準化機構)で規格化されています。そのため、1つのデータベース用のSQLを覚えると、他のほとんどのRDBで同じように利用できます。開発現場では、案件により利用するプログラム言語は様々ですが、データベースの言語はSQLが利用されます。学生のうちに、SQL言語を理解しておくことで、社会に出てからのアドバンテージを得られます。														